

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2012.09) 平成21年度:96.

高齢患者が心臓リハビリテーションを行うための取り組み

渡邊和恵

高齢患者が心臓リハビリテーションを行うための取り組み

9階東ナースステーション 渡辺 和恵

当院循環器外科病棟での心臓リハビリテーション（以下CR）は急性期の患者が対象のため、看護師と病棟内の廊下歩行を中心に行っているのが実状である。当病棟の患者は高齢になるに従い、CRは休みながらでも実行できるが日常生活動作の自立は遅れる傾向にある。また自立した途端に転倒する事例も少なくない。

旭川市近郊には回復期以降のCR施設が数箇所である為、退院後CRが受けられない場合が殆どである。また廊下歩行を中心に行っているCRのため、患者が日常生活動作の自立へと結びつけられて考えられなかったり、冬期間は歩行することが困難となる。そのため退院後の

生活に対して手術前のように過ごすことへの不安が強かったり、生活自体が自立できない患者に対しては療養目的で転院するが、高齢者ほどその割合が多くなっている。施設での継続的なCRを受けられないため、自宅での運動習慣が必要となる。そのため高齢者は日常生活が自立できて転倒する事なしに活動量を維持することが必要となっている。

当病棟でCRを開始した高齢患者を対象に、日常生活の自立と転倒予防への介入を並行して取り組んだので報告する。